



平成30年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年4月27日

上場会社名 株式会社 システムソフト 上場取引所 東
 コード番号 7527 URL <https://www.systemsoft.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉尾 春樹
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 富田 保徳 (TEL) 092-732-1515
 四半期報告書提出予定日 平成30年5月1日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年9月期第2四半期の連結業績 (平成29年10月1日～平成30年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第2四半期	1,287	—	△11	—	△61	—	△90	—
29年9月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 30年9月期第2四半期 △95百万円 (—%) 29年9月期第2四半期 —百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年9月期第2四半期	△1.33	—
29年9月期第2四半期	—	—

(注) 第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成29年9月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年9月期第2四半期	7,594	6,786	89.0
29年9月期	—	—	—

(参考) 自己資本 30年9月期第2四半期 6,761百万円 29年9月期 —百万円

(注) 第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成29年9月期の数値については記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年9月期	—	0.00	—	2.00	2.00
30年9月期	—	0.00	—	—	—
30年9月期(予想)	—	—	—	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年9月期の連結業績予想 (平成29年10月1日～平成30年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,000	—	150	—	110	—	70	—	1.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

30年9月期2Q	67,974,560株	29年9月期	67,974,560株
30年9月期2Q	31,719株	29年9月期	31,719株
30年9月期2Q	67,942,841株	29年9月期2Q	67,909,986株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
3. その他	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

なお、第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度末との比較については記載しておりません。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（平成29年10月1日～平成30年3月31日）におけるわが国の経済は、海外経済の回復や企業の生産活動の堅調さを背景とし、景気は緩やかな回復基調が続いたものの、米国の通商政策の行方、各国の地政学リスク、円高の進行等を受け、先行きの不透明感が残る状況で推移いたしました。

当社が属する情報サービス産業におきましては、政府が推奨する第4次産業革命の推進に伴い、IoT、ビッグデータ、人工知能等による新たな可能性に引き続き期待が集まっております。

このような環境下、当社は、システム開発分野において、当社が得意とする技術要素・ノウハウを活かした案件の受注を進め、賃貸不動産業界をはじめとするシステム開発案件を受注してまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,287百万円、営業損失は11百万円となりました。また、株主優待関連費用22百万円、子会社による投資事業に伴う為替差損16百万円等の営業外費用を計上したことにより、経常損失は61百万円、東京本社の移転に伴う本社移転費用および固定資産除却損計17百万円等の特別損失を計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純損失は90百万円となりました。

なお、当社におきましては開発案件の受注が下期に集中する傾向があることから、平成30年2月8日に公表いたしました通期業績予想から変更はありません。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

① システムソリューション事業

Web技術をベースとするシステム開発に強みを持ち、不動産分野、情報通信分野、生損保分野、教育分野等のお客様に対して長年にわたってシステム開発及びソリューションサービスを提供することに加え、賃貸不動産情報サイトの運営を行っております。

また、新規事業としてRPA（Robotic Process Automation）ソリューションを提供しております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、生損保分野において案件の受注が順調に進み、売上および利益ともに貢献いたしました。一方、その他のシステム分野全般において受注が伸び悩み、特に不動産分野において大幅な落ち込みがありました。さらに、不動産分野、賃貸不動産情報サイト運営分野およびRPA分野においては、予定を上回る開発工数を要したこと、開発および人材育成などの先行投資を行ったことから、開発原価増となり利益が減少いたしました。

これらにより、システムソリューション事業の売上高は1,046百万円、セグメント利益は7百万円となりました。

② マーケティング事業

日本におけるWebマーケティングサービス開始初期から培ってきた技術・ノウハウを活かし、大手企業を中心としたお客様に対して、Webマーケティングにおけるコンサルティングを中心に、そこから派生するシステム開発を含むソリューションサービスの提供を行っております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、マーケティングに対する手法の多様化や他社との競合を踏まえて、当面の規模は縮小しつつも高い利益率を確保することに重点を置き、事業体制の再構築に取り組みました。その結果、一定の整理ができましたので、今後は新規顧客の獲得等の事業拡大に努めてまいります。

これらにより、マーケティング事業の売上高は238百万円、セグメント利益は10百万円となりました。

③ その他事業

子会社 株式会社S2iはIoTに関連する商品やサービスの提供事業を、株式会社アライアンステクノロジーは当社の事業分野に関連した投資事業を、それぞれ行っております。

S2iのIoT事業につきましては、さくらインターネット株式会社との合弁事業として進めておりますが、スマートロック「TiNK（ティンク）」（株式会社tsumug開発）を活用した各種サービス提供開始後の本格稼働となる見込みであります。

これらにより、その他事業の売上高は3百万円、セグメント損失は0百万円となりました。

（2）財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は3,450百万円となりました。主な内訳は、売掛金が1,480百万円、現金及び預金が1,359百万円、営業投資有価証券が353百万円であります。

固定資産は4,143百万円となりました。主な内訳は、有形固定資産が17百万円、無形固定資産が2,967百万円、投資その他の資産が1,158百万円であります。

この結果、資産合計は7,594百万円となりました。

流動負債は305百万円となりました。主な内訳は、買掛金が123百万円、未払金が47百万円、1年内償還予定の社債が40百万円であります。

固定負債は501百万円となりました。主な内訳は、社債が340百万円、長期未払金が159百万円であります。

この結果、負債合計は807百万円となりました。

純資産合計は6,786百万円となりました。主な内訳は、資本金1,506百万円、資本剰余金4,262百万円、利益剰余金1,005百万円等であり、自己資本比率は89.0%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動による資金の減少16百万円、投資活動による資金の減少55百万円、財務活動による資金の減少314百万円により、1,359百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により減少した資金は、16百万円となりました。これは主に、仕入債務の減少額69百万円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により減少した資金は、55百万円となりました。これは主に、連結範囲の変更を伴う子会社株式取得支出93百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により減少した資金は、314百万円となりました。これは主に、借入金の返済による支出155百万円等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年9月期通期の業績予想につきましては、受注の遅れ、開発体制確保の課題はあるものの、当社におきましては開発案件の受注が下期に集中する傾向があること、下期に不動産分野の大型案件の受注を見込んでいることから、平成30年2月8日に公表いたしました通期業績予想から変更はありません。

なお、業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	1,359,981
受取手形及び売掛金	1,504,582
営業投資有価証券	353,755
仕掛品	47,571
その他	190,409
貸倒引当金	△5,670
流動資産合計	3,450,631
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物（純額）	4,561
その他（純額）	13,002
有形固定資産合計	17,564
無形固定資産	
のれん	2,555,927
その他	411,160
無形固定資産合計	2,967,087
投資その他の資産	
その他	1,159,958
貸倒引当金	△1,013
投資その他の資産合計	1,158,945
固定資産合計	4,143,597
資産合計	7,594,228
負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	123,638
未払法人税等	9,270
その他	172,766
流動負債合計	305,675
固定負債	
社債	340,000
資産除去債務	2,341
その他	159,498
固定負債合計	501,839
負債合計	807,514

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間
(平成30年3月31日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	1,506,090
資本剰余金	4,262,292
利益剰余金	1,005,128
自己株式	△8,046
株主資本合計	6,765,464
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	△3,450
為替換算調整勘定	△464
その他の包括利益累計額合計	△3,914
新株予約権	16,471
非支配株主持分	8,692
純資産合計	6,786,713
負債純資産合計	7,594,228

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)
売上高	1,287,644
売上原価	1,063,261
売上総利益	224,383
販売費及び一般管理費	236,280
営業損失(△)	△11,896
営業外収益	
受取利息	187
受取配当金	208
投資有価証券売却益	4,931
その他	250
営業外収益合計	5,577
営業外費用	
支払利息	424
支払手数料	12,451
為替差損	16,608
株主優待関連費用	22,793
その他	2,502
営業外費用合計	54,780
経常損失(△)	△61,100
特別損失	
固定資産除却損	8,730
関係会社株式評価損	10,000
本社移転費用	8,741
特別損失合計	27,472
税金等調整前四半期純損失(△)	△88,572
法人税、住民税及び事業税	1,874
法人税等調整額	—
法人税等合計	1,874
四半期純損失(△)	△90,446
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△182
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△90,264

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)	
当第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)	
四半期純損失(△)	△90,446
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△4,935
為替換算調整勘定	178
その他の包括利益合計	△4,757
四半期包括利益	△95,204
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△95,021
非支配株主に係る四半期包括利益	△182

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)	
当第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	△88,572
減価償却費	90,671
のれん償却額	84,858
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,013
賞与引当金の増減額(△は減少)	△50,190
受取利息及び受取配当金	△395
支払利息	424
固定資産除却損	8,730
関係会社株式評価損	10,000
売上債権の増減額(△は増加)	△4,737
たな卸資産の増減額(△は増加)	△20,733
有価証券の増減額(△は増加)	8,253
仕入債務の増減額(△は減少)	△69,862
未払金の増減額(△は減少)	14,308
未払消費税等の増減額(△は減少)	42,060
為替差損	16,549
その他	△44,215
小計	△1,838
利息及び配当金の受取額	231
利息の支払額	△417
移転費用の支払額	△13,824
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△335
営業活動によるキャッシュ・フロー	△16,184
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△512
関係会社貸付けによる支出	△20,000
差入保証金の回収による収入	58,500
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△93,519
投資活動によるキャッシュ・フロー	△55,531

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)	
財務活動によるキャッシュ・フロー	
借入金の返済による支出	△155,411
リース債務の返済による支出	△3,243
社債の償還による支出	△20,000
配当金の支払額	△135,885
財務活動によるキャッシュ・フロー	△314,540
現金及び現金同等物に係る換算差額	△915
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△387,171
現金及び現金同等物の期首残高	1,747,153
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,359,981

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 当第2四半期連結累計期間(自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計
	システムソリューション事業	マーケティング事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,045,813	238,051	1,283,864	3,780	1,287,644
セグメント間の内部売上高又は振替高	952	-	952	-	952
計	1,046,765	238,051	1,284,816	3,780	1,288,596
セグメント利益又は損失(△)	7,151	10,066	17,217	△ 362	16,855

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、投資事業を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	17,217
「その他」の区分の利益	△ 362
全社費用(注)	△ 28,752
四半期連結損益計算書の営業損失	△ 11,896

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. その他

該当事項はありません。